

## 第3章 スポーツ分野の点検・評価

### 1. 対象事業

#### (1) スポーツ分野における主要な事業

分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の拡充		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	初心者向けスポーツ教室	○		
2	小・中学生向けスポーツ教室	○		
3	親子向けスポーツ教室	○		
4	体育の日事業	○		
5	東京2020大会 カウントダウンプログラム		○	
6	オリンピック・パラリンピックこども新聞		○	
7	BUNKYO2020「文の京めぐり」			○
8	カウントダウンラグビーワールドカップ2019 ストリートラグビー体験			○
9	あすチャレ！運動会「誰もが主役で参加できる運動会を作ろう」			○
10	スポーツ・パブリックビューイング	○		
11	読売巨人軍との協定に基づく事業の実施	○	○	
12	文京Lレディース支援事業	○		
13	日本サッカー協会との協定に基づく事業の実施	○	○	
14	地域のスポーツ団体等との連携による事業展開	○	○	
分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進				
15	地域スポーツ団体の支援・育成	○		
16	個人利用のためのスポーツ施設の開放と指導員によるアドバイス	○		
17	各種区民スポーツ大会等の開催	○		
18	文京区表彰要綱に基づく顕彰事業	○		
19	オリンピック・パラリンピック気運醸成補助金		○	
20	アウトドアスポーツ事業	○		
21	ジュニア・アスリート育成事業	○		
22	シニア向けスポーツ教室	○		
23	着衣泳講習会	○		
24	スポーツ指導者地域派遣		○	
25	スポ・レクひろば	○		
26	障害者のスポーツ施設利用促進事業	○		
27	障害者スポーツ体験教室	○		
28	障害者スポーツ指導員資格取得の支援	○		
分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備				
29	スポーツ施設の整備と活用促進	○		
30	六義公園運動場管理棟等の改築	○		
31	まるごと子育て応援未就学児童の遊び場開放事業	○		

32	学校施設の活用	○		
33	スポーツ交流ひろばの充実	○	○	
34	スポーツ推進委員会活動への支援	○		
35	スポーツ推進委員・スポーツリーダー等の委嘱	○	○	
36	スポーツ指導者の育成	○	○	
37	スポーツ指導者派遣	○	○	
38	スポーツボランティアの養成	○	○	○
39	スポーツボランティア情報の発信	○		
40	スポーツ交流ひろば通信の発行	○		
41	地域スポーツ情報の提供	○		
42	各種メディアとの連携推進	○		
<b>分野別目標4 スポーツ活動を通じた仲間づくりと交流</b>				
43*	社会教育関係団体登録制度による活動支援	○		
44*	スポーツ交流ひろばの充実	○	○	
45*	スポーツボランティアの養成	○	○	
46	カイザースラウテルン市長杯文京区少年サッカー大会	○		
47*	親子向けスポーツ教室	○		
48	ニュースポーツ教室・大会	○		

\*がついている事業は再掲

## (2)分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 スポーツを身近に感じる機会の拡充	14事業	2事業
【分野別目標2】 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進	14事業	9事業
【分野別目標3】 スポーツ活動を支える環境の整備	14事業	10事業
【分野別目標4】 スポーツ活動を通じた仲間づくりと交流	6事業	0事業

## 2. 主要な事業の成果に対する評価

### (1)分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の拡充

#### 前年度の課題と今後の対応・方向

##### ①事業参加後の継続的なスポーツ活動の支援

「初心者向けスポーツ教室」について、参加者が教室終了後も競技を継続できる仕組みが必要である。各スポーツの関連団体と連携しながら、モチベーションを保つための取り組みについて検討する必要がある。

##### ②地域のスポーツ団体等との連携による事業展開

親子で参加できる初心者向け教室が中心だが、継続してスポーツを行いたい参加者へのフォローアップ教室等があるとよい。親子向けということで、区報掲載及び学校等へのチラシ配布が主な広報であるが、幅広い年代に周知する異なる手法がないか、検討する必要がある。

#### 【取組状況の評価】

##### ①事業参加後の継続的なスポーツ活動の支援

従来の初心者向けスポーツ教室に加え、各団体等との協働により、「あすチャレ！運動会」や「BUNKYO RUGBY DAY」等の新たな競技に触れられる取組を実施し、区民が自主的・自発的にスポーツに触れられる機会が提供されている。

《関連事業 2、3、8、9、10、11》

##### ②地域のスポーツ団体等との連携による事業展開

各スポーツの関連団体と連携し、経験者向けのバスケットボールクリニックが実施されたほか、ランニングクリニックにおいては初心者コースに加えステップアップコースが設置されるなど、継続してスポーツを行いたい区民に対して、フォローアップが実施されている。東京2020大会に向けては、オリンピック・パラリンピックこども新聞事業を各号10万部発行し、新聞折込により配布するなど幅広く周知されている。

《関連事業 5、6、7》

#### 【課題と今後の対応・方向】

##### (1)スポーツの楽しさを知る機会の創出

若年層のスポーツ機会の拡充や高齢者でも取り組めるスポーツ教室の実施等、ライフステージやライフスタイルに応じ、すべての人がスポーツに親しめる機会の確保が必要である。また、「見る」「支える」スポーツ環境のさらなる充実に向けて、ボランティアへの区民参加の促進、スポーツ指導者の養成・確保が必要である。

##### (2)スポーツ観戦の場と機会の拡充

ホームページ等で協定締結団体や区ゆかりのチームの観戦・応援イベント等の情報を周知し、スポーツの魅力と得られる感動の共有を促進されたい。東京2020大会期間中は、コミュニティライブサイトの実施により、大会に参加する機会を提供し、区民が一体となって大会の感動と興奮を共有できるよう努められたい。

### (3)プロスポーツ等団体との連携・協力

東京2020大会に向けて、高まってきたスポーツへの関心が一過性のものにならないよう、引き続き関係団体と協力し、障害者スポーツなどの普及や理解の促進に努められたい。また、区民がボランティア参加で培った「支える精神」や、ホストタウン事業を通じて生まれた国際理解などを、大会後もレガシーとして継承できるよう努められたい。

#### 【参考事業】

##### ■事業9 あすチャレ！運動会「誰もが主役で参加できる運動会を作ろう」

事業概要		
日本財団パラリンピックサポートセンターが実施するプログラム「あすチャレ！運動会」を活用し、パラリンピック種目を含む様々な競技を体験する場を提供する。		
事業実施内容	事業実績	
年齢や性別、体力差、障害の有無等に関わることなく、パラスポーツを通して、誰もが楽しい時間を共有しながら、チーム間のコミュニケーション、結束力等を醸成する運動会『あすチャレ！運動会』。 <実施内容> ・シッティングバレーボール ・ゴールボール ・車いすポートボール ・車いすリレー	当初予定数	100人
	実績数	71人(-)(-)
	申込数	-
成果	課題	
障害者にとってのバリア(障壁)への気付きやコミュニケーション・チームプレーの大切さ等を共有し、参加者全員で協力し合いながら運動会を作り上げたことで、スポーツを通じて障害への理解を深めることができた。参加者数:71人	障害者スポーツの知名度向上や競技の魅力を発信していく必要がある。	
	<b>課題解決に向けた取組</b> 障害者スポーツを体験・理解できる機会の提供となるよう、様々な競技団体との連携を強化し、積極的かつ適切なアプローチを図る。	

実績数(※)欄には、左から、令和元年度71人、(平成30年度0人)、(平成29年度0人)を記載  
以下同じ

## ■事業6 オリンピック・パラリンピックこども新聞

事業概要	
オリンピック・パラリンピックを多角的に捉え、選手や競技紹介、大会開催に関わる人々や仕事、国際大会が及ぼす影響など、様々な視点からこどもたちが感じ、学んだことを紙面を通じて伝える。	
事業実施内容	事業実績
年間2回、各号約10万部を発行した。 第7号(8月27日) BUNKYO RUGBY DAY、JOCオリンピック教室郊外編、日本×ドイツ親善交流演奏会、和太鼓グループ「鼓童」、「いだてん」トークショー、Let's 55、国際女性会議WAW!、パラ応援コンサート等 第8号(12月27日) ハンドボール女子日本代表、第11回太田雄貴フェンシング大会、パラバド イギリス代表、パラ1年前、パラアーチェリー永野美穂選手、文京シビック柔道教室、男子チアSHOCERS、文京クリスマスマーケット2019等	<b>当初予定数</b> ー
	<b>実績数</b> こども記者及び編集サポーター登録数 82人(100人)(70人)
	<b>申込数</b> ー
成果	課題
オリンピック・パラリンピックの、スポーツとしての側面だけでなく、国際交流や文化等についても取材を行い、こどもたちの言葉を通じて発信することにより、保護者や区民から共感を得ることができた	昨年よりこども記者の登録者数が減り、また記者の記事作成をサポートできる編集サポーターも不足している。
	<b>課題解決に向けた取組</b> 連絡会議の場で周知を図るなど、事業の認知度を高めることにより、区立小・中学校や区内大学と連携を強化し、こども記者及び編集サポーター登録者数の増加を図る。

## (2)分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進

<b>前年度の課題と今後の対応・方向</b> <b>①地域スポーツ団体からの依頼種目の拡充</b> 「地域スポーツ団体の支援・育成」について、スポーツ推進委員やスポーツリーダーに派遣依頼のある競技種目に偏りがあるため、指導可能な競技種目について地域団体に周知する必要がある。 <b>②障害者スポーツ体験教室の実施</b> 障害者スポーツ教室については、応募者が定員を充足しない場合があるので、周知先を再考し、障害者スポーツに関心がある層に確実に情報を届ける必要がある。また、日本財団パラリンピックサポートセンター解散後においても障害者スポーツ教室を維持するため、各競技団体との連携を保持する方策を検討しなければならない。
--

### 【取組状況の評価】

#### ①地域スポーツ団体からの依頼種目の拡充

新たな競技種目実施など様々な要望に対し、競技力の向上や健康維持、豊かなスポーツライフの実現のため、スポーツ推進委員等と協議し、柔軟に対応されている。

《関連事業 24》

## ②障害者スポーツ体験教室の実施

ブラインドサッカーや車いすバスケットボールなどの各団体と連携し、体験会や研修等を実施することにより、誰もが気軽に楽しむことのできる障害者スポーツの普及振興に取り組まれている。《関連事業 27》

### 【課題と今後の対応・方向】

#### (1)スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開

だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しめる環境の更なる整備に向けて、トップアスリートを身近に感じることのできる機会を提供するほか、講習会や相談事業などを積極的に展開するなど、スポーツへの関心を喚起する必要がある。

#### (2)多様なニーズに対応するプログラムの提供

競技志向や娯楽志向等のニーズを把握し、体育協会及びスポーツ推進委員等と協働により、注力していくべき競技の整理や、質の高い技術・技能を有する指導者の養成と確保が必要である。

#### (3)スポーツをともに楽しむ意識の醸成

ウォーキングやボッチャなどの、性別、年齢等に関わらず、誰もが幅広く参加できるスポーツの積極的な普及と推進に努める。

#### (4)障害者スポーツの普及振興

障害者スポーツに触れることは、社会や日常の中で障害者が抱えている悩みや課題についての気付きにつながり、障害者への理解と共生社会の実現に大変有意義であることから、引き続き、各競技団体と連携し、障害者スポーツの魅力と可能性の発信に努められたい。

【参考事業】

■事業24 スポーツ指導者地域派遣

事業概要		
区民の自主的なスポーツ・レクリエーション活動を促進し、スポーツ・レクリエーション活動を行う団体を育成する。		
事業実施内容	事業実績	
派遣件数:127単位 ・スポーツ推進委員:69単位 ・スポーツリーダー:58単位 ※派遣回数:1団体につき年間4単位(1単位2-3時間程度)	当初予定数	—
	実績数	127単位(124単位)(126単位)
	申込数	127単位
成果	課題	
昨年度に比べわずかながらであるが、派遣単位数が増加し、新規団体からの申請も増加した。	実績が少ない競技への派遣を増加させるため、周知に注力する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	区ホームページ、SNS等を有効に活用し、認知度を高めるほか、社会教育関係登録団体への情報提供や各種事業実施時等においても制度を周知する。	

■事業27 障害者スポーツ体験教室

事業概要		
障害の有無に関わらず、スポーツを楽しむ機会を確保するため、様々な障害者スポーツを「する」「観る」事業を実施する。		
事業実施内容	事業実績	
スポーツ指導者を対象とした車いすバスケットボール体験や、日本ブラインドサッカー協会と協働で、ブラインドサッカー東日本リーグの試合観戦及びユニバーサルスポーツ体験を実施した。 また、日本サッカー協会、TOKYOUNITED FC及びfree bird mejirodaiと連携し、「文京サッカーチャレンジDay」を開催し、ブラインドサッカー及びウォーキングサッカーの普及振興を図った。	当初予定数	—
	実績数	3事業(5事業)(4事業)
	申込数	—
成果	課題	
スポーツ指導者向けの体験会を通じて、指導者としての障害者スポーツへの関わりを考える契機となった。 また、試合観戦や各種体験会を通じて、老若男女を問わず幅広い区民に、障害者スポーツの魅力を伝えることができた。さらに、参加者一人ひとりが、障害者が日常生活で直面する障壁や抱える悩みに対して気付きを得、考え行動する契機となった	例年、障害者スポーツ事業は、内容にかかわらず参加者を確保するのが難しい。興味関心を引く事業内容・周知方法を工夫する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	今回、ほかのメジャーなスポーツと組み合わせることで参加者増につながった。今後、参加者へのアンケート実施等によりニーズを把握するとともに、事業内容を検証・改善する。	

### (3)分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備

#### 前年度の課題と今後の対応・方向

##### ①スポーツ活動を支える人材の育成・確保

スポーツ推進委員については、今後も積極的な活動を継続する必要があることから、意欲があり、継続的に活動できる人の確保に努められたい。また、スポーツリーダーは、地域でのスポーツ活動を支える重要な役割を担っている。現在活動している人の意向をくみ上げ、育成を進めてほしい。

#### 【取組状況の評価】

##### ①スポーツ活動を支える人材の育成・確保

地域でのスポーツ活動の核となるスポーツ推進委員について、各団体に推薦を依頼し、意欲的かつ安定的に活動できる人材が確保されている。

《関連事業 34、35、36、37、38》

##### ②スポーツ施設の環境整備(新規)

だれもが安全で快適にスポーツを楽しむことができるよう、老朽化した屋外スポーツ施設の環境整備として、六義公園運動場管理事務所棟の改築工事を着工した。平成30年度に改修したスポーツセンターをはじめ屋内スポーツ施設や学校施設は、引き続き区民の身近なスポーツ活動の場として活用されている。

《関連事業 29、30、32、33》

#### 【課題と今後の対応・方向】

##### (1)気軽にスポーツを楽しめる環境の整備

区民の健康意識を高めていくため、子育て世代、高齢者等、各年代のライフスタイルに応じた細かなアプローチについて検討が必要である。また、老朽化した屋外スポーツ施設整備をさらに進められたい。

##### (2)スポーツ指導者等の育成と確保、技術の強化

競技力向上や競技の裾野拡大等に向けて、各競技団体やスポーツ推進委員等とさらに連携して、研修会等を通じ資質の向上に努められたい。

##### (3)スポーツボランティア等の活動支援

スポーツ推進委員やスポーツボランティア等の活動が、継続的・持続的となるよう、区内大学や協働する団体との連携を図り、区民等に活動機会を積極的に提供し、人材確保と参加支援に繋げる必要がある。

##### (4)スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備

区広報課や各所管課とも連携し、適時適切な情報発信に努めるとともに、区内の特色あるスポーツ団体や大学のもつ高度な情報やノウハウを活用するためのネットワーク構築を検討されたい。



【参考事業】

■事業35 スポーツ推進委員・スポーツリーダー等の委嘱

事業概要		
スポーツ推進委員やスポーツリーダー等を委嘱する。		
事業実施内容	事業実績	
○委嘱人数 ・スポーツ推進委員(定員33) 31名 【内訳】体協加盟団体・健全育成会等からの推薦:23名、公募:8名 ・スポーツリーダー(定員なし、体協加盟団体、地域スポーツ団体等からの推薦) 39名	当初予定数	72人
	実績数	70人(71人)(74人)
	申込数	70人
成果	課題	
経験豊富なスポーツ推進委員やスポーツリーダーが引き続き委嘱された。	スポーツ推進委員は定員を満たしていないため、継続して適した人材の確保に努める必要がある。	
	<b>課題解決に向けた取組</b> 推薦依頼先の団体・学校等に対して、より積極的に働きかけるとともに、委員及び委員会の役割や活動の効果的な広報に注力する。	

■事業30 六義公園運動場管理棟等の改築

事業概要		
六義公園運動場の老朽化した管理事務所を、施設全体でバリアフリー化を図り、ミーティングルーム、更衣室やだれでもトイレが整備された、だれもが安全で快適なスポーツを楽しむことができる管理事務所棟に改築する。		
事業実施内容	課題	
改築期間：令和元年6月から令和3年1月まで 改築内容：だれでもトイレの整備、エレベーター設置等によるバリアフリー化、全館空調（冷暖房）設備の整備等	当初予定数	—
	実績数	—
	申込数	—
成果	課題	
埋蔵文化財発掘調査や新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響で工期が延長となったが、仮事務所を設置し、仮囲いの中で工事をすること等、一部期間を除いて休場することなく、工事が進んでいる。	小石川運動場、後楽公園少年野球場及び竹早テニスコートの屋外施設について、グラウンドやコート面等で老朽化が進んでいる。	
	<b>課題解決に向けた取組</b> 小石川運動場については、令和2年度にベンチシェルター及びベンチシートの設置や人工芝の部分改修を行う予定である。	

#### (4)分野別目標4 スポーツを通じた仲間づくりと交流

##### 前年度の課題と今後の対応・方向

##### ①スポーツボランティアの活動場所の拡充

「支える」スポーツの担い手としてのスポーツボランティアを、区が主催する事業だけでなく、区内大学・団体や、区外で実施される各種のスポーツイベントに派遣することにより、東京2020大会の気運醸成を図り、さらに大会後の活動につなげていく必要がある。

##### 【取組状況の評価】

##### ① スポーツボランティアの活動場所の拡充

幅広い年代が登録しており、スポーツを支える活動や支援に繋がり、また、区外団体からの要請の基づき派遣するなど、その活動の裾野拡大や新たな可能性の発見に繋がっている。

《関連事業 45》

##### 【課題と今後の対応・方向】

##### (1)スポーツを通じた仲間づくり

仲間とスポーツを行うことは、体力維持や健康増進などに加え団結力や協調性も芽生え、活動意欲の向上も期待できることから、社会教育関係登録団体への加入促進や情報発信と合わせ、活動状況の適正化に努められたい。

##### (2)スポーツを通じた交流

性別や障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツに親しめる機会を提供することで、世代間や地域間交流を促進し、地域コミュニティの活性化に努められたい。

##### 【参考事業】

##### ■事業45 スポーツボランティアの養成

事業概要		
「支えるスポーツ」の担い手として、スポーツボランティアを登録、養成、派遣する。		
事業実施内容	事業実績	
スポーツボランティア登録者数:157人 令和元年度スポーツボランティア派遣人数:323人 スポーツボランティア養成講座受講者数:延べ20人	当初予定数	—
	実績数	ボランティア従事者数 延べ323人(472人)(300人)
	申込数	—
成果	課題	
スポーツ事業・オリンピック・パラリンピック気運醸成事業を中心に、従事を依頼した。また、区外の自治体・ボランティア団体との連携により、区内で実施していない競技スポーツへの派遣数が増加した。区内学校の生徒を中心に新規のボランティア登録数が増加した。	東京2020大会の気運醸成及び大会成功の一助となるよう、より多くの事業への参加と、適した人材を確保する必要がある。	
	課題解決に向けた取組 引き続き、区主催以外の事業へも派遣を積極的に行うほか、効果的な事業周知の工夫とSNS等により活動の露出を図る。	

### 3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

---

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)

スポーツ分科会座長 青木 和浩

①分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の充実

②分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進

③分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備

④分野別目標4 スポーツを通じた仲間づくりと交流

⑤分野の総評